

ここらの句、 ここらの絵

「たがわ発見モデルコース③」



所要時間 / 約4時間

平成筑豊鉄道 糸田駅

ココからスタート

山頭火 漂泊の道

貴船神社の横から延びる坑長坂。坑長とは炭坑長のこと。坂の上には管理職らが住んだ職員社宅街が広がっていました。緑平の旧居はその一角にあったもの。山頭火はこの坂を何度行き来したのでしょうか。坂の上に句碑あり。

山頭火が眺めた風景のなかへ。 坑夫のみなぎる生命力のなかへ。

泌泉(たぎり)という伝説の泉が1300年にわたって田畑を潤し続け、「いとよき田」と呼ばれた糸田。かつて炭鉱で栄えたこの町に実はあの漂泊の俳人、種田山頭火がたびたびやって来ています。当地にあった明治豊国病院の医師で、彼を物心両面で支えた心友、木村緑平を訪ねてのこと。いつも快く迎えてくれた緑平の人柄にはもちろん、ボタ山にも魅了されていたのです。

そして、かつて筑豊屈指の規模を誇った町、田川伊田へ。田川市石炭歴史博物館は、山本作兵衛の炭坑の暮らしを描いた炭坑画などの展示や、炭鉱住宅も復元され、田川の石炭産業が一目でわかるようになっていきます。博物館に隣接する石炭記念公園には、二本煙突(旧三井田川鉱業所第一煙突や伊田竪坑櫓(旧三井田川鉱業所伊田竪坑櫓)があり、これらは文部科学省により、平成19年10月2日に国の有形文化財に登録され、平成20年9月に文化庁が世界遺産の国内暫定リストに登載した「九州・山口の近代化産業遺産郡」の一角を占める。

木村緑平旧居

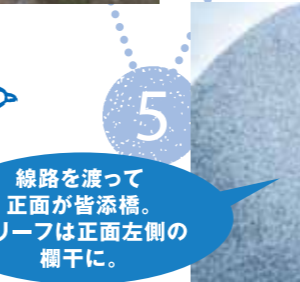
職員社宅街の東端の眺めのいい場所にあり、緑平は昭和2年~同13年まで住んでいました。ここから山頭火が「逢ひたいボタ山」と詠んだ貴船ボタ山が真南にありました。

皆添橋

山頭火と緑平の文化活動を顕彰して皆添橋東側に設置されたレリーフ。ボタ山の風景といっしょに山頭火の代表作「逢ひたい捨炭山が見えだした」が刻まれています。

旧居下の句碑

旧居から階段を下りて少し歩くと右側に句碑。一面に緑平、もう一面に山頭火の句が刻まれています。



線路を渡って正面が皆添橋。レリーフは正面左側の欄干に。

井上陽水の父が開いていた 歯科院の跡が。



旧中央公民館跡地には 陽水自筆の歌碑があるよ。



糸田小学校

糸田小学校校門横に句碑。「かくれん坊の雀の尻が草から出てある」緑平。「ふりかえるボタ山ボタン雪ふりしきる」山頭火。

伯林寺

境内に句碑。「逢ひたい捨炭山が見えだした」山頭火。「雀うまれてある花の下を掃く」緑平。

モニュメント

道路横に建つ3面から成るモニュメントで、糸田町の2大祭り「田植祭」「糸田祇園山笠」の様子と、山頭火、緑平の句が刻まれています。



平成筑豊鉄道 糸田駅

田川後藤寺駅で JR日彦線に 乗り換え



田川伊田駅

大煙突(二本煙突)

国登録文化財・経済産業省認定近代化産業遺産 世界遺産国内暫定リスト記載

伊田坑開設時に、捲揚機および付属施設の動力用として蒸気汽缶が設置され、この汽缶の排煙用として2本の大煙突が築造されました。耐火煉瓦製で高さ45.45m、耐火煉瓦は総計213,000枚を使用しています。



伊田 竪坑櫓

国登録文化財・経済産業省認定近代化産業遺産 世界遺産国内暫定リスト記載

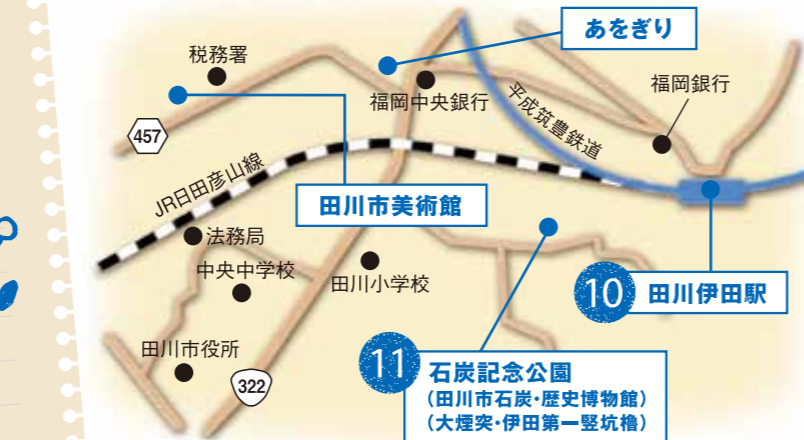
三井田川鉱業所が田川開発の切り札として、1910年(明治43)に完成させました。高さ約23mの鉄製で、イギリス様式のボックス型です。筑豊に残存する唯一の竪坑関係遺跡です。



田川市石炭・歴史博物館

(炭坑資料・復元された炭鉱住宅が 経済産業省認定近代化産業遺産)

筑豊炭田の歴史や採炭の様子などを伝えるほか、7歳から坑内に入り自らの過酷な体験を素朴な筆遣いで描いた山本作兵衛の炭坑記録画を展示。

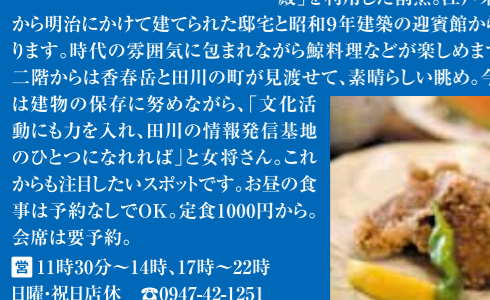


ご当地の美味・逸品

「あをぎり」

初代田川市長を務めた林田春二郎の旧邸宅「あかが御殿」を利用した割烹。江戸末期から明治にかけて建てられた邸宅と昭和9年建築の迎賓館から成ります。時代の雰囲気にも包まれながら鮎料理などが楽しめます。二階からは香春岳と田川の町が見渡せて、素晴らしい眺め。今後は建物の保存に努めながら、「文化活動にも力を入れ、田川の情報発信基地のひとつになれば」と女将さん。これからも注目したいスポットです。お昼の食事は予約なしでOK。定食1000円から。会席は要予約。

11時30分~14時、17時~22時
日曜・祝日店休 ☎0947-42-1251



四季さいさい



丸山公園の桜

田川後藤寺駅の近くにある公園。3月末から4月初旬にかけて約1000本の桜が咲き競います。



中元寺川の菜の花

3月上旬から中元寺川の土手が一面、菜の花の黄色で染まります。



オプションルート

田川ゆかりの芸術に親しみたい方にはこちら

田川市美術館

「筑豊からの発信」をテーマにした筑豊地区初の公立美術館です。郷土にゆかりの深い作家の作品や、郷土の陶芸でもある上野焼などを収蔵、展示しています。1991年11月のオープン以来、ふるさとの美術を広く紹介するとともに、企画展の開催や市民の発表の場としても利用されています。筑豊に開業や市民の発表の場としても利用されています。筑豊にある3つの公立美術館(碓井町立織田廣喜美術館・直方谷尾美術館・田川市美術館)で「筑豊美術館ネットワーク(略して「ちくネット」)」にも取り組み、筑豊全域の文化発展につながっていくことを目指した活動も行っています。

【主な収蔵品】

- ・野見山暁治「ぼくの生まれた川オンガ」
- ・立花重雄「集落(ブエプラ)」
- ・立石大河「昭和素敵大敵」
- ・松永真「Rights of Humankind」
- ・川俣正「COALMINE TAGAWA PLAN9」



山頭火は生涯にわたって書き綴った日記をすべて託したほど、緑平に心を許していました。

ボランティアガイドさんに頼もう!

種田山頭火・木村緑平を顕彰する会 仲江健治さん

山頭火は調べても調べてもつまずけない。「宿(やど)銭」を「どや銭」などといったり、仏教や儒教の難しい言葉を使ってみたりとものすごく幅が広い人でもあります。そんな山頭火の魅力を糸田で再発見してください。

ボランティアガイドお問い合わせ / 糸田町役場産業経済課 ☎0947-26-1231 2週間ほど前に予約が必要です。コース、所要時間などはご相談に応じます。ガイド費用は無料です。

